

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
オリンピック・パラリンピック教育推進校

事業実施報告書

学校名【横浜市立 岡村小学校】

1 実践テーマ	【スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成】
2 実施対象者	全校児童 ※イベント等については、保護者や地域に公開した。
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科、生活科、総合的な学習の時間、他) ② 行事名 (岡村オリンピック、わくわくフェスティバル、他) ③ その他 ・(オリンピック、パラリンピアン)の訪問授業) ・(オリ・パラ校内写真展) (2) 地域における活動 ① イベント名 (第3回岡村タンブレリ大会)
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック教育の理念や具体的な方策に学び、子どもにとって魅力ある豊かな教育課程を創造する。 ○平成30年度の教育活動のブラッシュアップ。 ・体育科を始めとする教科等の授業デザインを見直す。 ・オリンピックやパラリンピアン等から学ぶ機会を探る。 ○平成32年度完全実施となる新教育課程編成。 ・オリ・パラ教育の理念等を生かした教育課程編成を進める。 ・オリ・パラ教育を視点に本校の特色ある教育活動を創造する。
5 取組内容	1. 教職員研修 (1) 豊かな教育課程編成のためのオリ・パラ教育の導入の考え方 (5月、講師：校長) 全ての教育活動を通して、「心も体も元気な岡村っ子」を育む。 三つのつながりー教科等横断的な視点に立った教育 (*²『横浜の時間』、*³道徳教育他)、多様性を踏まえた教育 (*⁴人権教育、*⁵特別支援教育他)、学校間等のつながりを重視した教育 (小中一貫、幼保小連携他) 教育活動 (授業づくり) デザイン ※三つのつながり、自分づくり教育の10の視点、オリ・パラ教育の推進を柱に教育活動・授業をデザインする。 ※*⁸P-D-C-A を重視したしなやかな授業改善に努める。 「自分づくり教育」を充実させるための10の視点 ①学習の見通し ②めあてや目的に沿った学習の 振り返り ③人との関わり ④多様な集団の構成 ⑤豊かな体験活動 ⑥地域教材の活用 ⑦話し合い活動 ⑧ツールの活用 ⑨学習形態の工夫 ⑩場の設定の工夫 オリンピック・パラリンピック教育推進校としてーオリ・パラ教育の目標、*⁷4×4の取組における指導重点他

(2) ゴールデン・スポーツイヤーズ、学校への期待！

(7月、講師：間野義之早大大学院教授)



2. 教育環境づくり

(1) 学校だよりにオリ・パラエンブレムの活用 (5月より継続)



(2) 校舎にエンブレム等を掲示 (5月より継続)

校舎3階窓に、「岡村小学校はオリ・パラ教育実施校です」等の文字を掲示。



(3) 図書室にオリ・パラ関連図書のコーナーを設置 (6月より継続)

体育科学習や総合的な学習の時間などの調べ学習に、子どもたちが活用。



(4) オリ・パラ教育校内写真展の開催 (12月)

本校の子どもたちの学習の様子、東京オリンピック1964、リオ・オリンピック・パラリンピック2016、東京オリンピック・パラリンピック2020で構成。



3. 教育活動

(1) 体育科授業（通年、校内重点研公開授業）



本校は、体育科学習を校内重点研教科として17年間続けてきた。写真は、個別支援学級の体育科授業。「なりきりオリンピック」で、メダルを目指して、子どもたちは、肋木登りや走り高跳びに取り組んだ。

(2) 生活科・総合的な学習の時間の取組（12月）



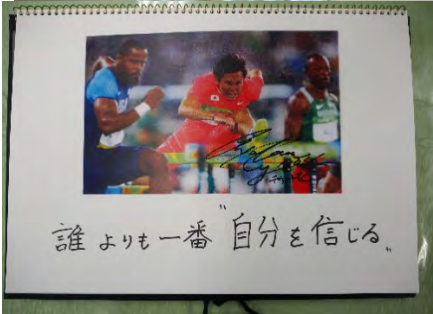
個別支援学級「なりきりオリンピック」をテーマにパフォーマンスを披露。最後に、オリ・パラ音頭を踊った。



3年2学級は、障害者スポーツ、ゆるスポーツをテーマに研究した。



4年1学級は、ラグビーワールドカップ、5年1学級はパラリンピックをそれぞれテーマに研究した。

	(3) オリンピアン・パラリンピアンによる特別授業（11月、1月） 11月、リオ・オリンピック2016、陸上男子110メートルハードル代表の矢澤 航選手が、来校した。2時間目に全校児童を対象に模範演技と講演、3、4時間目に6年生を対象に「走り方教室」を行った。 1月、車いすバスケットチームによるデモンストレーションゲームや講演、車いすバスケットボール体験教室等を予定している。    
6 主な成果	1. スポーツを楽しむ子どもを育成できた。 体育科授業では、オリ・パラ教育や人権教育の視点から授業をデザインすることを試みている。運動が苦手な子どもが楽しむ授業づくりが進んだ。 2. 生活科や総合的な学習の時間を活性化できた。 多くの学年・学級でオリ・パラ教育を視点に、生活科・総合学習のこだわり単元を立ち上げることができた。障害者スポーツやゆるスポーツなど。 3. オリンピック、パラリンピックへの関心を高めた。 体育科学習、生活科や総合学習の取組、特別授業、校内写真展等を通して、オリ・パラそのもの、また、競技や選手など広く関心を広げることができた。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	市教委事務局・指導企画課の指導・支援の他に、次の部署の助言・支援をいただけたことが、様々な活動を生むチャンスとなった。 ○オリンピックによる特別授業の実施ー横浜市体育協会・磯子区スポーツセンター ○オリ・パラ教育校内写真展における東京オリンピック、パラリンピック2020のエンブレムを示すポスター借用ー市民局及び磯子区こども青少年局学校支援連携課 ○パラリンピアンによる特別授業の実施ー横浜市障害者スポーツセンター・ラポール
8 主な課題等	すでに様々な教育活動の中に、オリ・パラ教育の理念や内容を取り入れてきた。さらに、年間を通して全ての教科等の中にその埋め込み、子どもにとって魅力ある豊かな教育課程編成を進めたい（クロスカリキュラムの実現）。 また、岡村オリンピック（運動会の名称）等、本校の特色ある教育活動に、オリ・パラ教育の理念や内容をスパイスとしてブラッシュアップを図りたい。
9 来年度以降の実施予定	以上の2つの課題の解決のために、授業等を通してながら研究を深め、オリ・パラ教育を学校教育に取り入れる意義を明らかにするとともに、具体的方策・事例を示したい。 また、新教育課程編成と併行して、学校の教育環境の見直し・改善も模索したい。例えば、緑陰教室（校地内の施設）のディスクゴルフ・フィールド化、ピロティのボルダリングコーナー設置など。